

みなとみらい産官学ラウンドテーブル第19回公開セミナー開催報告

テーマ：『海外水ビジネス市場の展望と日本企業の戦略』

講師：グローバルウォーター・ジャパン 代表 吉村和就 氏

日時：平成25年12月16日(月)

平成25年12月16日(月)みなとみらい産官学ラウンドテーブル第19回公開セミナーが横浜国立大学成長戦略研究センター主催により、横浜ランドマークタワーにおいて開催されました。

今回は、グローバルウォーター・ジャパン 代表 吉村和就氏により『海外水ビジネス市場の展望と日本企業の戦略』というテーマで御講演頂きました。

2050年には100兆円を超えると予想される「水インフラへの投資」ですが、巨大な資本を要し利益を確保するまでに時間のかかる公共投資やODA事業ではなく、“足の速い”産業用の水ビジネスに着目し、日本型ビジネスモデルの創出で「ジャパン・イニシアティブ」の積極的なアライアンス模索に向けた提言と克服すべき課題についてお話を伺う事ができました。

産業界に有望な市場として ①「海水淡水化、再生水市場」、②「シェールオイル・ガス関連水処理ビジネス」、③「バラスト水ビジネス」について、市場と技術方式、関連プレイヤーの動向を解説頂きました。

具体的には、海水淡水化市場は低塩分濃度の「かん水」も含め5～10兆円で、今後中国やインド、シンガポール、アルジェ等の新規市場が拡大すると期待される。実用化されている淡水化方式として膜方法が6割、蒸発方式が4割だが膜が詰まらない電気透析法などもある。日本企業は膜方式でプレゼンスを示したが、近年機器・装置は単価競争が激化し、エンジニアリング・コンサルティングも含む市場の8割は海外企業が供給している。逆浸透膜関連技術の蓄積を活かしつつ、前処理コスト低減や省エネ型脱塩方式開発(低浸透FO膜や電気透水EDM膜)だけでなく、膜センサーによるモジュール内診断機能や運転制御データ蓄積を経営資源として活用するビジネス展開も積極的に取り組むべき分野との指摘もなされました。

米国でのシェールガス革命は、水圧破碎を中心にポンプ・配管、用水処理装置など水処理技術関連で約1兆円と期待される市場で、日系企業に求められる戦略として、小型パッケージの排水・再生水処理装置や生物分解系水圧破碎薬剤、高圧配管、流量測定バルブ、遠隔監視システムなどでのチャレンジが重要と考えられます。

バラスト水処理装置市場は、船舶のバラスト水に含まれる動植物プランクトンや菌類の世界規模での移動と放出による環境・衛生問題対応のため水管理の国際条約が予定され、小型軽量で短時間の処理・放出が可能な処理装置が求められ、日系企業は膜・ポンプ・計器などの強みを活かしながら船舶オーナーのニーズ対応や総合システム提案のため全て自前でなくオペレーション・メンテナンスも含め上手なアライアンスの組み方を模索する必要があるのではないのでしょうか。

上記の日本企業の海外市場をめぐる取り組みの中で、プレゼンスを強化するには、英文での技術・製品情報の発信や国際会議・展示会での発表を行うと同時に、現場第一線に若手技術者を送り込み、水関連のビジネスチャンスにアンテナを張り、アライアンスで市場に進出する取り組みが益々重要となるとの見解で講演は締めくくられました。

【参加者のアンケートから】

参加者 48名の内41名からアンケート回答があり、大半の方から、「期待した内容である」、「参考になる」との評価を頂きました。

特徴的な意見としては、下記の通りでした。

- ・水に関する知識はほぼゼロでの参加でしたが、水市場にまだ多くの可能性、需要があることがわかりました。
- ・最近のトレンドを中心に話が聞けて参考になった。
- ・内容も理解し易かった。
- ・特にシェールガス採掘に関する事は、何も事前に調べていなかったもので、興味を持った。
- ・吉村先生のGeneral・Informative・Comprehensive・Intelligentな切り口でのお話がとても素晴らしかったです。吉村先生に感謝しています。
- ・世界の水ビジネスの潮流と概要をまとめていただいた。日本に期待する先生の思いが伝わった。
- ・足の速い水ビジネスの現状について良く理解できた。
- ・シェールガス、バラスト水について学べた。

【セミナー会場の様子】

